

# 1 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和5年度分）

<県の評価等>

施設所管部名： 病院事業庁

## 1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立志摩病院(志摩市阿児町鵜方1257)
指定管理者の名称等	公益社団法人地域医療振興協会 理事長 吉新通康（東京都千代田区平河町 2-6-3）
指定の期間	令和4年4月1日～令和14年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療等に関する業務</li> <li>・利用に係る料金の收受等に関する業務</li> <li>・手数料の徴収に関する業務</li> <li>・施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務</li> <li>・その他志摩病院の管理上必要と認める業務</li> </ul>

## 2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R4	R5	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送患者の受入れを積極的に行うなど、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へ移行した中、一般診療との両立を図りながら、地域の医療機関と連携し、紹介患者の受入れなどに対応した。</li> </ul>
2 施設の利用状況	B	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1か月平均救急患者数は、積極的な救急車搬送の受入れにより、前年度実績を大きく上回った。それに伴い、1日平均入院患者数についても前年度を上回った。一方、1日平均外来患者数は前年度を下回ったが、国が定める選定療養費の徴収義務化等の影響が考えられる。</li> </ul>
3 成果目標及びその実績	B	C	—		<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者満足度は成果目標を達成したが、その他の指標は成果目標を下回っている。</li> </ul>

※「評価の項目」の県の評価：  
 「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。  
 「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。  
 「 」 （空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>令和5年度においても、幅広い疾患に対応できるよう診療体制を維持し、診療機能の維持及び地域医療への貢献に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院診療では、一般病床、地域包括ケア病床及び精神病床を運用することにより、地域の医療ニーズに的確に対応したことに加え、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へ移行した中、地域の医療機関からの紹介患者の受入れ等を行った。</li> <li>・外来診療では、前年度末に小児科の常勤医師が退職したが、非常勤医師を確保し、診療日数を週3日に減少することで診療体制は維持した。</li> <li>・救急診療では、内科系救急における24時間365日の患者受入れ体制を維持し、地域の関係機関との連携を積極的に進めた結果、救急患者の受入れが大きく増加した。</li> <li>・成果目標については、患者満足度を除く各指標で目標値の達成には至っておらず、指定管理者による的確かつ十分な要因の分析、対策の実施が必要である。</li> </ul>
--------	---

## < 指定管理者の評価・報告書(令和5年度分) >

指定管理者の名称: 公益社団法人地域医療振興協会

### 1 管理業務の実施状況及び利用状況

#### (1) 管理業務の実施状況

##### ① 三重県立志摩病院の管理運営事業の実施に関する業務

- ・令和5年度の病院運営は、医師 32 名(常勤医 25 名、初期研修医7名)の診療体制でスタートし、業務の効率化を図りながら、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。
- ・入院診療では、2次救急病院として救急患者や紹介患者を受入れるとともに、回復期機能である地域包括ケア病棟(3・6病棟)を運用した。
- ・新型コロナウイルス感染症について、感染症法の位置づけが5類感染症へ移行した後は、地域の医療機関からの患者の受入れ等、他の医療機関と連携して適切に対応した。
- ・外来診療では、小児科の常勤医師の退職に伴い、非常勤医師による診療体制となり、外来診療は週3日になった。そのほか、精神科では前年度比で患者数が増加した一方、外来診療全体では患者数が減少した。
- ・救急医療では、内科系は平成 28 年5月から 24 時間 365 日患者の受入れを継続して実施している。外科系では日中(8 時 30 分～17 時)のほか、平日の準夜間(17 時～22 時 30 分)の受入れを実施している。特に令和5年度は救急患者数が前年度より 687 人増加した。
- ・健診事業では、地域内の企業等に対する広報活動を積極的に行っており、健診件数が前年度より増加した。
- ・地域医療支援病院(平成 29 年 10 月承認)として、1次医療を担う地域医療機関との患者の紹介・逆紹介の推進、入院加療や救急患者の受入れ、専門外来の診療、医療機器の共同利用、地域の医療関係職員の研修などを実施した。

##### ② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・建物(一般病棟、管理・検査棟、精神病棟)は、築後 30 年以上が経過し、設備も老朽化が進んでいるため、経年劣化による修繕対応が増えている。令和5年度は、病院事業庁が火災報知設備等改修工事等を実施し、病院側で空調機等の修繕等を実施した。
- ・医療機器については、病院事業庁により計画的に更新されているが、耐用年数を超えている機器も多く、適切な修繕により長寿命化に努めている。
- ・人件費や物価等が高騰する中、費用削減に努めるとともに、経営改善に資するため、委託契約の見直し交渉を行い、昇降機の保守業務委託等の契約金額の削減を実現した。

##### ③ 施策への配慮に関する業務

- ・G7三重・伊勢志摩交通大臣会合の現地救護室へ看護師1名を派遣し、安全・安心な開催に貢献した。
- ・志摩市間崎島への巡回診療を月2回(内科系・外科系)実施し、島民に受診の機会を提供した。また、へき地医療支援機構(事務局)として代診医の派遣調整を実施した。
- ・オンライン資格認証システムを令和3年度に導入し、マイナンバーカードを健康保険証として利用できる環境を整えている。
- ・「女性が働きやすい医療機関(平成 29 年3月県認証、令和2年3月再認証、令和5年3月再認証)」として、女性の就労環境等の改善に努めた。
- ・省エネルギー対策(電灯のLED化等)に取り組んだ。
- ・思いやり駐車区画を正面玄関付近と立体駐車場に設け、適正な利用について啓発を実施した。

##### ④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・関係法令に基づいて規程を整備、個人情報管理責任者を配置し適切な管理を実施した。

##### ⑤ その他の業務

- ・地域連携室では、地域の医師会、介護・福祉施設、関係団体等と顔の見える関係を築くとともに、地域の中核病院として、地域の医療職を中心の研修会等を実施してきた。

(2) 施設の利用状況

	R 4	R 5
1日平均入院患者数	166.2人	169.2人
1日平均外来患者数	258.4人	247.6人
1か月平均救急患者数	300.9人	358.2人

2 利用料金の収入の実績

	R 4	R 5
入院収益	2,220,510千円	2,227,266千円
外来収益	837,040千円	822,089千円
その他医業収益	82,586千円	83,268千円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R4	R5		R4	R5
指定管理料	590,447,000	620,094,000	事業費	4,491,753,333	4,280,186,186
利用料金収入	3,140,135,088	3,132,623,215	管理費	63,051,000	62,922,000
その他の収入	1,438,038,546	251,067,786	その他の支出	6,073,453	5,944,119
合計 (a)	5,168,620,634	4,003,785,001	合計 (b)	4,560,877,786	4,349,052,305
収支差額 (a) - (b)	607,742,848	△345,267,304			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	1日平均入院患者数 204 人/日 1日平均外来患者数 305 人/日 1か月平均救急患者数 497 人/月 経常収支比率 98.4 % 患者満足度 95.0 %
成果目標に対する実績	1日平均入院患者数 169.2 人/日 (R4実績:166.2人/日) 1日平均外来患者数 247.6 人/日 (R4実績:258.4人/日) 1か月平均救急患者数 358.2 人/月 (R4実績:300.9人/月) 経常収支比率 92.1 % (R4実績:113.3%) 患者満足度 97.2 % (R4実績:92.4%)
今後の取組方針	志摩地域の中核病院として、地域の方々に安全かつ良質な医療が提供できるよう、引き続き諸課題の改善に努めるとともに、当院が保有する医療資源を最大限に活用しながら診療体制の構築に努めていく。 また、内科系救急の24時間365日の患者受入れ体制を維持して行くとともに、外科系救急の受入れ体制が維持できるよう体制の確保を図っていく。 引き続き指導医、専門医の確保に努めるとともに、総合診療医と専門医との連携による医療の充実に取り組んでいく。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急搬送について、積極的な受入れに努めた結果、志摩市消防本部から当院への救急搬送患者数の割合が増加するなど、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。</li> <li>外来診療では、小児科の常勤医師が退職したため、非常勤医師による診療体制となり、診療日は週3日へ減少した。</li> <li>新型コロナウイルス感染症について、5類移行後は地域の医療機関からの紹介患者の受入れに適切に対応した。</li> <li>施設及び設備の維持管理及び修繕を適切に実施した。</li> </ul>
2 施設の利用状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急患者の積極的な受入れを行い、それに伴い入院患者数が増加したことにより、救急患者数及び入院患者数は、前年度より増加した。</li> <li>地域包括ケア病棟の運用（長期間入院加療ができる病床として住民の医療ニーズに対応）や地域医療支援病院としての活動（病診連携の推進）など、入院・外来患者の確保に向けた取組を実施している。</li> </ul>
3 成果目標及びその実績	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日平均入院患者数、1日平均外来患者数、1か月平均救急患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復できておらず、成果目標が達成できなかった。それに伴い、経常収支比率も目標未達成となったが、人件費や物価等の高騰の影響により、費用が増加傾向であることも一因である。</li> </ul>

※評価の項目「1」の評価： 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。  
「B」 → 業務計画を順調に実施している。  
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。  
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」、「3」の評価： 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。  
「B」 → 当初の目標を達成している。  
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。  
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

<p>総括的な評価</p>	<p>令和5年度も、業務の効率化を図りながら診療機能の維持・充実を図り、地域医療への貢献に努めた。</p> <p>入院医療では、急性期、地域包括ケア及び精神病床を運用することにより、救急搬送患者や地域の医療機関からの紹介患者の受入れ等、地域の医療ニーズに的確に対応し、61,938人の患者を受入れた。</p> <p>外来診療では、小児科の常勤医師の退職に伴い、非常勤医師を確保し診療を継続した。外来診療全体では 60,169 人の患者を受入れた。</p> <p>救急診療では、内科系救急において24時間365日の患者受入れ体制を維持するとともに、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、より一層積極的に救急車の受入れを行った。</p> <p>収支状況については、入院患者数は前年度より増加したものの、新型コロナウイルス感染症における診療報酬上の特例の見直し等により、医業収益は減少した。また、委託契約金額の見直し交渉等を行い、経費削減に努めたものの、人件費や物価等の高騰により費用が増加している。</p> <p>医療人材の確保について、確保が難しい薬剤師の奨学金制度を充実し、地域の教育機関へ説明を行うとともに、積極的な周知を依頼した。</p> <p>施設・設備の老朽化等への対応や高額な医療機器の更新については、県と連携を密にし、計画的な導入に努めた。</p>
---------------	--